

令和7年度
前期日程

小 論 文

地域科学部

問 題 冊 子

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
2. 本冊子は、大問

 ・

 および各問題の後に付した下書用紙の合計12ページです。
3. 試験中に、落丁、乱丁、印刷不鮮明、汚れなどに気がつき、解答にさしさわった場合には、直ちに試験監督者に申し出ること。
4. 受験番号は、5枚の解答用紙のそれぞれの指定された場所に、必ず記入すること。
5. 解答は、解答用紙の指定箇所に、正確な、読みやすい字で記入すること。
6. 解答用紙は、必ず提出すること。
7. 問題冊子は、持ち帰ること。
8. 大問ごとに、満点に対する配点の比率(%)が表示してあります。

I 以下の文章は、鈴木瞬「ケアと教育をつなぐ 子どものための学童保育とは」(『世界』岩波書店、2024年6月号、一部改変)の一部である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(配点比率50%)

この部分につきましては、著作権許諾の都合により公開しません。

この部分につきましては、著作権許諾の都合により公開しません。

この部分につきましては、著作権許諾の都合により公開しません。

この部分につきましては、著作権許諾の都合により公開しません。

- 問 1. 下線部(a)「この部分につきましては著作権許諾の都合により公開しません。」に関して、著者は学童保育指導員にはどのようなことが求められると考えているか。本文の内容に即して説明しなさい。(200字程度)
- 問 2. 学童保育における「生活」と「教育」との関係性について、著者の考えも踏まえながら、あなたの考えを述べなさい。(400字程度)

II 以下の文章は、市野澤潤平「リスクの相貌を描く——人類学者による『リスク社会』再考」(東賢太郎・市野澤潤平・木村周平・飯田卓(編)『リスクの人類学——不確実な世界を生きる』世界思想社、2014年、一部改変)の一部である。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(配点比率50%)

現代社会は「リスク社会」であると言われている。そしてさまざまな領域でリスク・マネジメントの必要性が声高に叫ばれている。では、我々が生きる現代は、はたして過去と比べて、リスクが大きい／多い時代なのだろうか。

有史以前から、人間を取り巻く環境は危険に満ちあふれていた。人間の生業活動の大部分はリスクへの対処であった、と表現しても過言ではない。ゆえに、現代社会をしてことさらに「リスク社会」である、と表現されるときには、ただたんにリスクの多さのみが意識されているのではない。従来から存在するものとはまったく異なるリスクが増大している、という理解が、一般に流通する「リスク社会」という語の背後にある。そのような意味での「リスク社会」を生きる人びとは、歴史上かつて直面したことのない新たなリスクに脅かされているというわけだ。

「リスク社会」という言葉を一般に広めたのは、U.ベックである。ベックによれば、近現代における科学技術の発達と工業化・産業化の進展は、人びとを物質的に豊かにする一方で、新たな危険^(a)の登場を招いた。それは質的に新しく、しかも巨大で、しばしば対処がきわめて難しいものであるという。具体的には、放射能漏れを伴う原子力発電所の事故や、化学物質による広域汚染などが念頭に置かれている。科学技術が発達した結果、専門家以外には(そして時に専門家さえ)制御しきれないようなブラックボックスのなかで、予想もしない危険が生じる。経済や行政や科学といった専門分化した領域が巨大化し、さらにそれら複数のシステムが関連しあう複雑さが、大きな／多数の不確実性を育てている。我々が生きる世界のどこにどのような危険があるのか、そしてその危険の原因は何か、どうすれば軽減できるのか、もはや判然としない。

たとえば、設計の刷新により劇的な燃費向上を果たしたとして鳴り物入りで登場したボーイング社の787型旅客機は、2011年の就航以来たびたび不具合に見舞われた。2013年1月には電池室からの出火事故が連続したことにより、アメリカ連邦航空局から運航停止命令を受ける事態となった。航空会社への当初の引き渡し予定(2008年)を大幅に延期してまで安全検査を徹底してきたはずの787型機は、なぜ就航後も機材トラブルを引き起こしつづけたのだろうか。仮にある1つの部品が99.9%の確率で安全だとしよう。しかしそれが1000個使われたシステムの全体が安全である確率は、単純計算で37%程度になってしまう(実際の事情ははるかに複雑だ)。現代のハイテク旅客機のような巨大なシステムになれば、見えないどこかに破綻が生じていることは不可避であるとすら言えるのだ。世界の航空事故の歴史をひもとけば、きわめてささいな不注意や機材の欠陥が、重大事故の引き金となっていることがよくわかる。

(中略)

人間をして不利益をリスクとして意識させるそもそもの源泉は、未来を過去の延長線上において捉えようとする認識である。それは一言で表すなら、〈結果としての未来〉観だと言えるだろう。〈結果としての未来〉とは、現在までに与えられた諸条件が時間発展した結果として未来があるという、過去・現在の延長としての未来である。〈結果としての未来〉は、現在の延長であるがゆえに、現在において予期できる。予期された〈結果としての未来〉が不利益とみなされるときに、リスクへの意識が生じる。

もちろん、過去から現在へという推移の単純な外挿が、そのまま未来へと現実化していくわけではない。未来は現在の諸条件が因果的な連関のもとに時間発展した結果であるが、その〈結果としての未来〉を完全には予測できないことを、我々は経験的に知っている。

(中略)

ゆえにリスクとは、「現在においては未来のことがまだわからず、知ることもできないがゆえに、不確実性を伴う未来の被害の現在における予期、という意味で理解される」。

(中略)

〈結果としての未来〉観は、過去・現在と未来とのあいだの因果的連続性への了解を土台として、成立している。^(b)そこでの未来は、したがって過去と現在の経験に依拠した予測の対象となる。のみならず、現在における決定や行動が未来を規定するのであれば、自己による決定いかんで未来の姿は変わっていくはずだ。つまり、未来は現在における人間の手によって可塑的であるという認識が、そこに生じるのである。未来とは、現在の延長であるが、確定はしておらず、不完全にしか予測できない。他方で、不確実であるがゆえに、現在における意図的な働きかけによって因果的に変化させる余地がある——こうした確率論的世界観と因果論的世界観とが交差した地点における未来認識(の一形態)が、リスクであるとも言えるだろう。

(中略)

リスクが問題として見いだされるということは、そのリスクの原因と責任がどこにあるのかという、〈犯人探し〉がなされることと、同義である。すでに起こった出来事の犯人探しは、推理小説でもおなじみのように、その出来事を生じさせた因果系列の特定を通じてなされる。たとえば誰かが死体で発見された際には、ナイフで胸を刺すなどの、被害者が死亡する原因を作った者が犯人となる。対してリスクへの〈犯人探し〉は、すでに起きてしまった出来事ではなく、将来において被る「かもしれない」不利益の、原因となり責任を発生させる「かもしれない」因果の系列を、見定める。(中略)しかしもちろん、現時点で不利益はまだ形を成していないのだから、

明瞭な系列としての因果関係の特定はおこない得ない。そこで駆使されるのが、確率・統計という道具である。確率・統計を通じて、曖昧模糊とした未来における「かもしれない」は、具体的に把握できる形で可視化される。

(中略)

たとえば、ある特定の属性(収入、職業、学歴、住居、服装など)を持つ人びとの集合を取り出すと、その他の人びとに比べて、犯罪者である割合が高いということが、統計的に示される。もし誰かがその「犯罪者が多い」集合に属しているなら、その誰かは犯罪者である可能性が高い、という推論が、そこから導き出される。(中略)現代におけるリスクは多くの場合、このような統計と確率との共犯関係のもとに、人びとの前に提示される。

(中略)

リスクの存在を示すのみならず、それを不安や恐怖と結びつける回路が張りめぐらされ、刺し網のように人びとを絡め取っている(その典型が、種々のリスクを巧みに商機へと転換するリスク・ビジネスの氾濫だろう)この世界で、我々はリスクの存在と重さの両方に敏感にならざるを得ない。リスクの存在に怯え、その重さに打ちひしがれる。そんな陰鬱に我々を追い込んでいくのが、「リスク社会」である。繰り返して言えば、現代の「リスク社会」は、冒頭で紹介したような新しい巨大な危険による脅威に加えて、リスクを可視化して突きつけることを通じて我々をリスク・コンシャスな主体へと作り変えていく^(c)、種々の状況的要因の存在によってこそ、より鮮明に特徴づけられる。

問 1. 下線部(a)「新たな危険」とはどのようなリスクのことを指しているか。本文中の記述をもとに簡潔に述べなさい。(100字程度)

問 2. 下線部(b)「過去・現在と未来とのあいだの因果的連続性への了解」とはどういうことか。本文中の記述をもとに簡潔に述べなさい。(100字程度)

問 3. 下線部(c)にあるように、リスク社会とは、「リスクを可視化して突きつけることを通じて我々をリスク・コンシャスな主体へと作り変えていく」ものであり、そのことが不安や恐怖を増大させていることが指摘されている。このようなリスクの具体例を一つ挙げ、それとどのように付き合っていくべきか、あなたの考えを述べなさい。(400字程度)

